宮田

[睦彦君 正 丽 君

作曲 作歌

吹かれて落つる芝草に 楡が木の葉の秋風に にれ こ は あきかぜ

凋落正に秋深し 散りしく落葉の数知れず む男子の胸の中

小さき鳥の乱れ飛び 銀杏並木の夜歩きはいちょうなみき 仄青白き月影の ほのあおじろ つきかげ

憂愁正に秋深しゆうしゅうまさ あきふか 路面覆える金色に

寂寥正に秋深し 鳴るは心のため息かいま 梢を揺する秋風に 黄色く紅く色づきてきいるのかの

が窓越

し蔦の葉も ま

兀

ゆえだもあらぬこの悩み

流れ落ちては地に吸われながった。 ぬぐいも切れずただ。涙ぬぐいも切れずただ。涙 心の底に滲み入りて 懊悩正に秋深